

コミュニティ

社会貢献活動

203-1,203-2,413-1

基本的な考え方・方針

ユニ・チャームは、「事業活動そのものによって社会に貢献する」という考えの下、事業活動と社会貢献活動が一体となった経営を推進しています。当社が事業展開をしている国・地域を重点に、その地域の特性に合った商品・サービスの提供によって、さまざまな社会課題の解決と雇用の創出をはじめとした地域貢献を実現し、グループ全体で地域の人々に愛される企業へ成長することを目指しています。

▶ 社会貢献活動に関する方針

当社は、事業展開を通じた地域・コミュニティとの共生が重要と認識しています。このため、当社の事業活動とつながりの深い分野や国・地域を重点に、その地域が抱える課題に真摯に向き合い、地域に貢献し得る各種の社会的な活動を通して、地域が抱える課題の解決や持続可能性への貢献を目指します。

社会貢献活動の重点分野

- ・健康
- ・地域貢献
- ・被災地支援

マネジメント体制

日本では、各部門および各法人が主体性を持って活動を展開しています。また、海外では各国・地域の現地法人が主体となって、地域に密着した社会貢献活動を展開しています。グループ全体の社会貢献の方針決定については、社長執行役員が委員長を務めるESG委員会において協議、決定しています。

P.010 ESG推進体制

取り組み・実績

社会貢献費用

2022年の社会貢献費用総額(日本)は、189.9百万円(うち寄付金71.2百万円)です。

ウクライナに対する支援

当社は、ウクライナで被害にあわれた方や、周辺地域に避難された方への人道的な支援を目的として、国連機関のUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)を通じて50万ユーロを寄付しました。これに加えて、難民の受け入れを表明している自治体や、ポーランドなどの受け入れ国に対し、支援物資としてベビー用紙おむつや生理用品、大人用紙おむつなどの当社商品を寄贈しました。

また、社員参加型のマッチングファンドを活用した義援金1,511,000円もUNHCRを通じてウクライナへ寄付しました。

P.110 【被災地支援】社員参加型のマッチングファンド

▶ 主な2022年の社会貢献活動

【健康】

医療機関／福祉施設等への支援等

- インドネシア：小児がん緩和ケア支援施設 Rachel House にベビー用紙おむつを毎月寄付（計300ケース）
- インドネシア、インド：社員による献血活動を実施（社員約130名）
- インド：社員が生活必需品を持ち寄り、高齢者や障がい者へ寄付
- タイ：高齢者団体に大人用紙おむつ（16ケース）を寄付
- タイ：工場近隣地域の介護施設や小学校に食料や日用品を寄付
- 日本：株式会社ツルハホールディングスと協同で札幌市社会福祉協議会へ車椅子（20台）、マスク（10,000枚）を寄付
- 日本：親子手話イベント「こめっこ5周年」へ『unicharm 顔がみえマスク』（100枚）を寄付
- ブラジル：養護施設や障がい児支援団体、がん患者を支援する団体等にベビー用紙おむつ（約750名分）、おしりふき（約160名分）を寄付
- ブラジル：高齢者支援施設に大人用紙おむつ（約80名分）を寄付
- 韓国：特殊学校で体育活動などのボランティア活動への参加
- 韓国：障がい者支援施設等へ生理用ナプキンとベビー用・大人用紙おむつ（計88,000枚）を寄付

ピンクリボン活動支援

- 日本：15年連続で本活動に協賛。ウェブサイトやパッケージ等を通じた啓発活動と、対象商品の売り上げの一部を寄付
- インドネシア：乳がん財団、インドネシア保健省と協働で、本活動を支援。Webサイトやパッケージ等を通じた啓発活動を実施

P.110 【健康】ピンクリボン活動支援

初潮教育・月経教育

- 各国・地域：初潮教育や月経教育を実施
- P.019** 性別や性的指向等により活躍が制限されない社会への貢献
- タンザニア：日本が支援しているさくら女子中学校を訪問し、生理用品を提供

妊婦教育・両親学級

- ミャンマー：妊娠中の女性に、妊娠期間中の栄養に関する知識と、赤ちゃんの成長に合わせた紙おむつの使用方法などに関する講習会を実施（3,980名）
- 日本：企業向け両親学級「みんなの育休研修」を実施

排泄ケア啓発活動

- 日本：地域や教育機関などと連携し「尿もれケア・排泄ケア」講座を実施（計38回／1,993名）
- 台湾-大中華圏：台湾尿失禁防治協会と連携で、医療関係者等へ排泄ケアについて講演（約430名）
- インドネシア：メッカ巡礼者用のガイドブックと大人用紙おむつのサンプルを配布し快適な巡礼を支援（約10万名分）

パートナー・アニマル（ペット）支援

- アメリカ：動物保護施設への商品寄付（332,000米ドル）
- アメリカ：保護犬・猫が新しい家族と出会うための環境づくりとして、過密状態にある動物保護施設から犬や猫を別の施設に移動するボランティア活動への参加（社員のべ16名）
- インドネシア：猫の保護施設に、猫用排泄ケア用品を寄付
- 韓国：韓国猫保護協会に、パートナー・アニマル（ペット）ケア用品（54,000ピース）を寄付

【地域貢献】

子育て支援への協賛等

- 日本：静岡県掛川市、鹿児島県志布志市、大崎町で出生時におむつを提供
- 日本：愛媛県「愛顔の子育て応援事業」、愛媛県四国中央市の紙おむつ支給事業に協賛
- タイ：孤児等を支援する財団にベビー用紙おむつ（109ケース）を寄付

物資支援

- 台湾-大中華圏：現地法人の拠点所在地である、新北市の中学校・高校や、貧困世帯の女性へ生理用ナプキン（約100万枚）を寄付
- 中国：現地法人の工場所在地の青浦区と長寧区の貧困世帯（75名）へ生理用ナプキンを寄付
- 中国：COVID-19によるロックダウン環境下における物資不足に対応し、現地法人の拠点所在地である、吉林省や上海にマスク（1,868ケース）、ベビー用紙おむつ（500パック）、大人用紙おむつ（1,620ケース）、生理用ナプキン（19,900名分）を寄付
- 韓国：貧困問題を支援する団体等と連携し、生理用ナプキンとベビー用紙おむつ（計15,000枚）を寄付

女性起業家支援

- インド：農村地域に住む女性を支援する「Project Jagriti」による女性起業家（130名）支援
- P.110** 【地域貢献】女性の経済的自立支援

清掃活動・ごみの分別授業

- マレーシア：生産拠点がある地域における清掃活動を実施（社員20名）
- インドネシア：ジャカルタ特別州内の小学校でごみの分別授業を実施（30名）
- 日本：使用済み紙おむつリサイクルに関する次世代教育を実施。鹿児島県志布志市立志布志小学校（42名）、「こどもトラストセミナー」（17名）
- P.043** 使用済み商品の廃棄方法啓発

スポーツを通じた地域貢献

- 日本：2020年より、日本プロサッカーリーグJ3、FC今治の「トップパートナー／共生社会実現パートナー」を継続
- 日本：男子プロテニス協会公認「ユニ・チャーム TROPHY 2022愛媛国際オープン」に協賛
- 日本：プロ野球独立リーグのベースボール・チャレンジ・リーグに所属する福島県のプロ野球球団である福島レッドホープスをスポンサーとして支援

地域活性化

- 日本：生産拠点のある福島県東白川郡棚倉町、静岡県掛川市、三重県名張市、兵庫県伊丹市、香川県観音寺市、福岡県京都郡苅田町のふるさと納税返礼品に当社の商品を採用

【被災地支援】

災害支援・被災地継続支援活動

- 日本：2011年より社員参加型マッチングファンドを継続
- P.110** 【被災地支援】社員参加型のマッチングファンド
- インドネシア：西スマトラ州で発生した地震による西スマトラのパサマン地区の避難所に当社商品（50ケース）を寄付
- インドネシア：西ジャワ州で発生した地震への支援として、被災地にベビー用紙おむつ（4,160枚）、生理用ナプキン（672枚）、軽失禁用品（2,400枚）、大人用紙おむつ（1,760枚）、マスク（28,800枚）を寄付

【健康】ピンクリボン活動支援

ピンクリボン活動は、乳がんの早期発見・適切な治療に向けて世界的に注目されている活動で、当社でもグローバルで本活動に協力しています。

ピンクリボン活動支援が15年目となる2022年も「ピンクリボン活動応援特設ページ」を開設し、乳がんに対する基礎知識や早期発見のためのセルフチェック方法等の情報を提供しました。応援デザインパッケージの発売と対象商品の売上金の一部の寄付、シンポジウム等への協賛を通じて本活動を応援しています。また、毎年10月をピンクリボン月間として、社員はピンクリボンバッジをつけ、家族や身近な人たちと一緒に乳がんについて考える機会としています。ユニ・チャーム株式会社では乳がんの早期予防対策として、全女性社員に乳がん検診の受診を会社負担で実施しています。現地法人では、インドネシアの乳がん財団(YKPI)・保健省と連携して、ピンクリボン活動を支援しています。生理用品ブランド『Charm』のパッケージやWebサイトを通じて、生理後の定期的なセルフチェックを啓発することで、乳がんの早期発見・適切な治療の大切さを広く伝えています。また、社員向けの定期的なセルフチェックに関する説明会などを実施しています。



【地域貢献】女性の経済的自立支援

インドの現地法人では、現地のNGO「PURE India Trust」と協力して、農村地域に住む女性を支援するために「Project Jagriti※」を2021年に開始しました。本プロジェクトは、インドの農村部における生理用ナプキンの認知度向上と普及を目指すとともに、当社の商品を通じてインドの女性に就労機会を提供し、経済的自立を促進することを目的としています。2022年は、ウツタル・プラデシュ州のブランドシャル地区とラジャスタン州のシーカル地区で合計130名の女性起業家を選出・支援しており、女性起業家は本プロジェクトを通じて継続的な収入を得ています。

また、本プロジェクトでは、選出された女性起業家を中心に、農村部の女性を対象とした月経に関する正しい知識を広めるための啓発活動も展開しており、2022年は、約9,800名以上の女性と少女が月経の仕組みや生理用ナプキンの使い方などを学びました。

※「Jagriti」は「目覚め」の意



女性起業家によるショップのオープン 月経に関する啓発活動

【被災地支援】社員参加型のマッチングファンド

2011年の東日本大震災直後より「被災地への継続的な支援」と「身近なエコ活動、節電を通じた環境負荷低減」を目的に「マッチングファンド」と「スーパークールビズ/ウォームビズ」活動※を継続しており、2022年までの12年間でのべ25,982名の社員が参加しました。これまでに、「マッチングファンド」より拠出した資金で、東日本大震災の被災地への支援や、災害発生時の被災地への義援金・物資の支援、ウクライナに対する支援を実施しました。

※ 就業中に着用できるオリジナルのポロシャツ、ジャンパーなどを社内で販売し、その購入代金相当額と同額を「マッチングファンド」として被災地へ支援する社員参加型の取り組み

P.108 ウクライナに対する支援